

OLYMPUS



2024年3月期 第1四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年8月9日

免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

第1四半期実績

✓ 上海ロックダウンなどから回復した中国や、全分野で成長したアジア・オセアニアが牽引。製品別では、EVIS X1などが貢献し、売上高は伸長。成長投資や事業運営基盤強化、効率性向上のためのプロジェクト費用などが先行し、減益

- 売上高： 連結で+8%（為替影響調整後+4%）成長。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高内視鏡・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成
- 調整後営業利益： 将来の成長やQARAをはじめとする事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加に加え、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用などが先行し、減益
- 当期利益*： 科学事業（イベント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,406億円、EPSは192円
- その他： FDAと建設的な対話を行いつつ、Warning Letter指摘事項に対する是正活動は順調に進捗

通期業績見通し

✓ 第1四半期実績はスローなスタートとなるも、計画達成に向け対応策を講じているため、通期見通しは据え置き

- 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 調整後営業利益： 費用管理を徹底し、前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円、調整後営業利益率は経営戦略で掲げた約20%を見込む
- 当期利益*： 過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通し

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（イベント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

01

2024年3月期 第1四半期
連結業績および事業概況

2024年3月期 第1四半期実績 ①連結業績概況

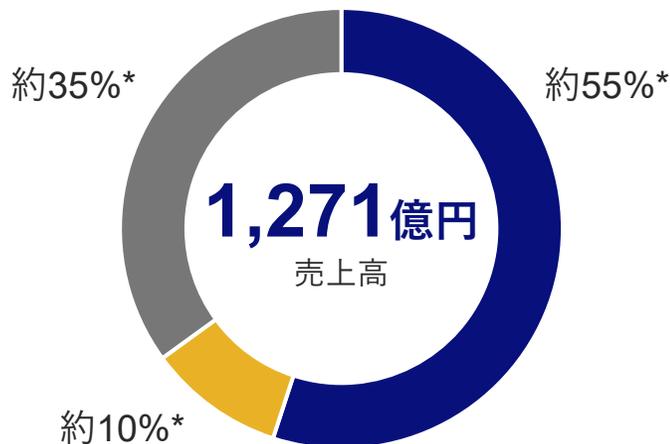
- 1 売上高：連結で+8%（為替影響調整後+4%）成長。医療分野は第1四半期として過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに1桁台後半の成長を達成
- 2 調整後営業利益：将来の成長や事業運営基盤強化などに伴う人件費の増加に加え、効率性向上などを目的とした各種プロジェクト関連費用などが先行し、減益
- 3 当期利益*：科学事業（エビデント）の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の2,406億円、EPSは192円

第1四半期実績（4-6月）

				前期比	為替影響調整後
		FY2023	FY2024		
(単位：億円)					
継続事業**	売上高	1,923	1 2,077	+8%	+4%
	売上総利益 (売上総利益率)	1,257 (65.4%)	1,372 (66.1%)	+9%	+2%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	960 (49.9%)	1,088 (52.4%)	+13%	+9%
	その他の収益および費用など	148	▲60	-	-
	営業利益 (営業利益率)	445 (23.2%)	225 (10.8%)	▲50%	▲60%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	297 (15.5%)	283 (13.6%)	▲5%	▲21%
	税引前利益 (税引前利益率)	420 (21.9%)	197 (9.5%)	▲53%	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	279 (14.5%)	135 (6.5%)	▲52%	
	非継続事業からの当期利益***	▲30	2,271	+2,301億円	
	当期利益	249	2,406	+865%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	249	3 2,406	+868%		
EPS	20円	192円			

*親会社の所有者に帰属する当期利益。
2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
**「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
***2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期 第1四半期実績 ②内視鏡事業



(単位: 億円)	FY2024	
	1Q	1Q
売上高	1,169	1,271
営業利益	248	222
その他の損益**	▲12	▲34
調整後営業利益	260	256
営業利益率 (為替影響調整後)	21.3%	17.4% (15.4%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	22.3%	20.1% (18.1%)

FY2024 vs FY2023 (4-6月) 売上高成長率

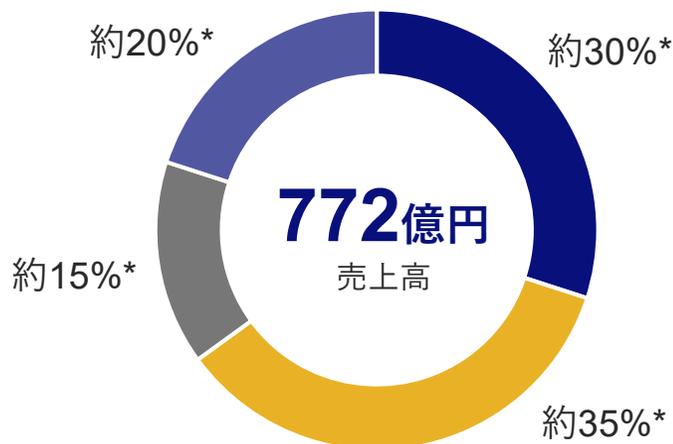
為替影響 調整後

円ベース 為替込み

■ 消化器内視鏡	0%	<ul style="list-style-type: none"> 前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国の成長が顕著。アジア・オセアニアや日本において、「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が好調に推移。一方、前年に英国などで大型案件による押上げ効果のあった欧州、「EVIS X1」発売前の買い控えが見られた北米は減収 	3%
■ 外科内視鏡	19%	<ul style="list-style-type: none"> 新製品の外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の販売が好調に推移し、全地域でプラス成長。特に「VISERA ELITE III」の拡販が奏功しているアジア・オセアニアが増収に寄与 	24%
■ 医療サービス	8%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長 	13%
合計	5%		9%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

2024年3月期 第1四半期実績 ③治療機器事業



	FY2023	FY2024
(単位: 億円)		1Q
売上高	724	772
営業利益	134	97
その他の損益**	▲2	▲19
調整後営業利益	136	116
営業利益率 (為替影響調整後)	18.5%	12.5% (11.4%)
調整後営業利益率 (為替影響調整後)	18.8%	15.0% (13.9%)

FY2024 vs FY2023 (4-6月)
売上高成長率

為替影響
調整後

円ベース
為替込み

■ 消化器科 (処置具)	5%	■ 北米を中心にプラス成長。ESD・EMR、サンプリング (生検鉗子等)、ERCP用の製品群の売上が拡大	9%
■ 泌尿器科	2%	■ 受注が好調なアジア・オセアニアが成長を牽引。主要製品を含み一時的な出荷停止や供給不足が発生するも、BPHで主に使用される切除用電極や尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」は引き続き販売が拡大	8%
■ 呼吸器科	▲2%	■ 欧米における一部製品の出荷停止や遅延を受け、為替影響調整後では減収。前年、COVID関連の補助金効果が見られた日本も低調に推移	2%
■ その他の治療領域	1%	■ 前年に上海ロックダウンなどの影響を受けていた中国の成長が顕著。特に耳鼻咽喉用スコープの売上が寄与	5%
合計	2%		7%

*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります / **決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / ***注：医薬品医療機器等法未承認品。一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

財政状態計算書

- ☑ 主にエビデント譲渡による現金・利益剰余金の増加により、バランスシートは為替影響（約743億円）を除いて実質約1,057億円増加
- ☑ エビデントの株式譲渡完了に伴い、売却目的で保有する資産および、それに直接関連する負債の額が変動

(単位：億円)	2023年3月末	2023年6月末	増減額		2023年3月末	2023年6月末	増減額
流動資産	7,264	9,648	+2,385	流動負債	4,619	4,164	▲455
棚卸資産	1,630	1,775	+145	社債および借入金	500	999	+499
売却目的で保有する 資産	1,696	6	▲1,691	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	433	0	▲432
非流動資産	7,820	7,234	▲585	非流動負債	4,052	3,650	▲402
有形固定資産	2,387	2,535	+148	社債および借入金	2,901	2,460	▲440
無形資産	1,152	1,202	+51	資本	6,412	9,069	+2,657
のれん	1,825	1,979	+154	自己資本比率	42.4%	53.7%	+11.3pt
資産 合計	15,083	16,883	+1,800	負債および資本合計	15,083	16,883	+1,800

連結キャッシュフロー計算書

- FCF： エビデント譲渡益などに係る法人税の支払を主要因に営業CFが減少したものの、エビデントの株式譲渡対価の受領などにより、FCFは大幅増。特殊要因を考慮した調整後FCFは103億円のマイナス
- 財務CF： 配当金支払を主要因に、259億円のマイナス

第1四半期実績（4-6月）

		(単位：億円)		増減	
		FY2023	FY2024		
継続事業	非継続事業	税引前利益	420	197	▲223
		営業キャッシュフロー	▲269	▲531	▲263
		投資キャッシュフロー	52	4,270	+4,218
		フリーキャッシュフロー	▲217	3,739	+3,955
		調整後フリーキャッシュフロー	▲202	▲103	+100
		財務キャッシュフロー	▲217	▲259	▲41
		現金および現金同等物期末残高	2,864	5,587	+2,723

2023年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業再編に伴う税金支出	▲178億円
投資CF：固定資産（土地）の売却による収入	+191億円
投資CF：エビデントの事業開始に伴う投資・一時的な資金負担	▲27億円

2024年3月期第1四半期（4-6月）の主な特殊要因

営業CF：エビデント株式譲渡益に伴う法人税の支払	▲567億円
投資CF：エビデント株式譲渡対価などの受領	+3,888億円
投資CF：エビデントに対する貸付金の回収	+520億円

A photograph of two surgeons in a clinical setting, wearing blue scrubs, surgical caps, and masks. The surgeon on the right is holding a surgical instrument with the brand name 'OLYMPUS' visible. The image has a blue color overlay.

02

2024年3月期 通期業績見通し

通期業績見通し ①連結業績

☑ 期初の見通しを据え置き

- 1 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 費用管理を徹底し、前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円、調整後営業利益率は経営戦略で掲げた約20%を見込む
- 3 当期利益*： 譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは273円となる見通し

		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
(単位：億円)						
** 継続事業	売上高	8,819	1 9,140	+321	+4%	+5%
	売上総利益 (売上総利益率)	5,968 (67.7%)	6,270 (68.6%)	+302	+5%	+7%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,205 (47.7%)	4,460 (48.8%)	+255	+6%	+7%
	その他の収益および費用など	103	▲180	-	-	-
	営業利益 (営業利益率)	1,866 (21.2%)	1,630 (17.8%)	▲236	▲13%	▲9%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,768 (20.0%)	2 1,820 (19.9%)	+52	+3%	+6%
	税引前利益 (税引前利益率)	1,823 (20.7%)	1,590 (17.4%)			
	継続事業からの当期利益	1,380 (15.7%)	1,150 (12.6%)			
	非継続事業からの当期利益	56	2,210			
	当期利益	1,436	3,360			
継続事業	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,434 (16.3%)	3 3,360 (36.8%)			
	EPS	113円	273円			

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
 **「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載
 ***2023年4月に非継続事業（イベント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

2024年3月期配当
 年間配当18円を予定

通期業績見通し ②セグメント別業績

☑ 期初の見通しを据え置き

1 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み。米国における「EVIS X1」の導入は2024年3月期中頃を予定

2 非継続事業： 譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し*	増減	前期比	為替影響調整後	
内視鏡	売上高	5,518	1	5,720	+202	+4%	+5%
	営業利益	1,528		1,580	+52	+3%	+6%
治療機器	売上高	3,182	1	3,290	+108	+3%	+5%
	営業利益	637		560	▲77	▲12%	▲8%
その他	売上高	119		130	+11	+9%	+8%
	営業損益	▲9		10	+19	+19億円	+19億円
全社・消去	営業損益	▲289		▲520	▲231	▲231億円	▲232億円
連結合計	売上高	8,819		9,140	+321	+4%	+5%
	営業利益	1,866		1,630	▲236	▲13%	▲9%
(参考) 非継続事業	売上高	1,354		0	▲1,354	-	-
	営業利益	70	2	3,470	+3,400	-	-

*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上しています

Management View

- ☑ FDAと建設的な対話を行いつつ、Warning Letterに対する是正活動は順調に進捗
- ☑ 全社横断的な品質変革プログラムを始動
- ☑ 第1四半期の業績はスローなスタート
さまざまなリスクはあるものの、
計画達成に向け対応策を講じている
ため、通期見通しは据え置き



OLYMPUS

A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".

参考資料

開示の変更点

2024年3月期第1四半期に科学事業（エビデント）の譲渡を完了したことに伴い、
2023年3月期第2四半期より2024年3月期までは科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

2022年3月期



2022年4月～2024年3月

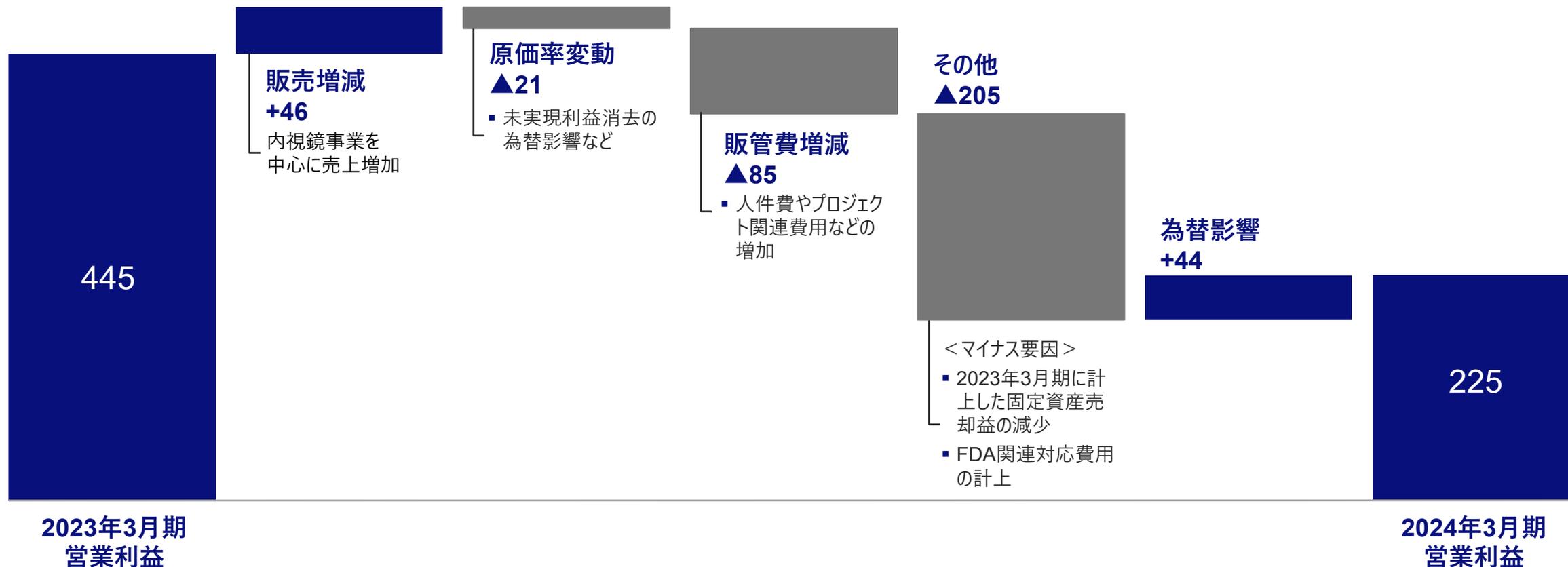


- ✓ 連結業績では、非継続事業からの当期利益（損失）を開示
- ✓ 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

2024年3月期 第1四半期実績 連結営業利益増減要因

第1四半期実績（4-6月）



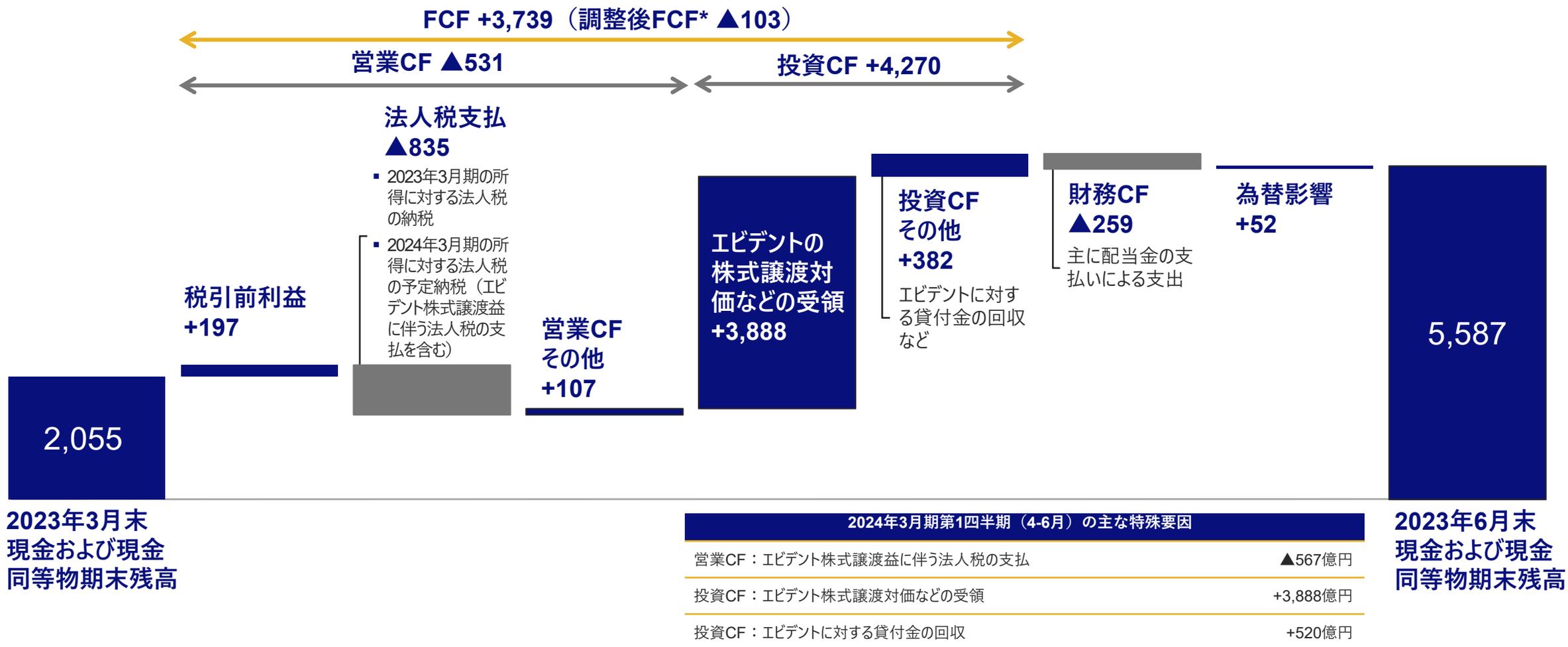
(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

2024年3月期 第1四半期実績 セグメント別概況

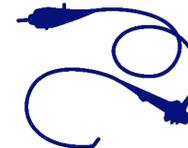
第1四半期実績（4-6月）

(単位：億円)		2023年3月期	2024年3月期	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,169	1,271	+9%	+5%
	営業利益	248	222	▲11%	▲24%
治療機器	売上高	724	772	+7%	+2%
	営業利益	134	97	▲28%	▲37%
その他	売上高	30	34	+13%	+9%
	営業損益	▲3	▲1	+2億円	+2億円
全社・消去	営業損益	66	▲92	▲159億円	▲158億円
連結合計	売上高	1,923	2,077	+8%	+4%
	営業利益	445	225	▲50%	▲60%
(参考) 非継続事業	売上高	218	0	-	-
	営業損益	▲37	3,476	-	-

連結キャッシュフロー 増減要因



プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年8月9日時点)



2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

現在の主力製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国、中国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器内視鏡

- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

外科内視鏡

- VISERA ELITE III (米国)

5%

2024年3月期 売上高成長率¹

¹ 為替影響調整後の成長率

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年8月9日時点)



2024年3月期の治療機器事業における重点施策

消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破碎治療における成長を拡大

呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力し、欧州・アジア地域におけるSPiN Navigationの市場拡大を推進
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

現在の主力製品

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- レゼクト電極
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州、アジア・オセアニア)

呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア・オセアニア)

直近の新製品 / 発売予定の製品

消化器科

- 1製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 5製品 (日本)
- 1製品 (中国)

泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア・オセアニア)
- シングルユース尿管鏡 (米国、日本)
- iTind (米国、欧州、アジア・オセアニア)
- レゼクト電極 (中国)
- 硬性尿管鏡 (中国)

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサ (欧州、日本、アジア・オセアニア)

中長期のパイプライン

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド

呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

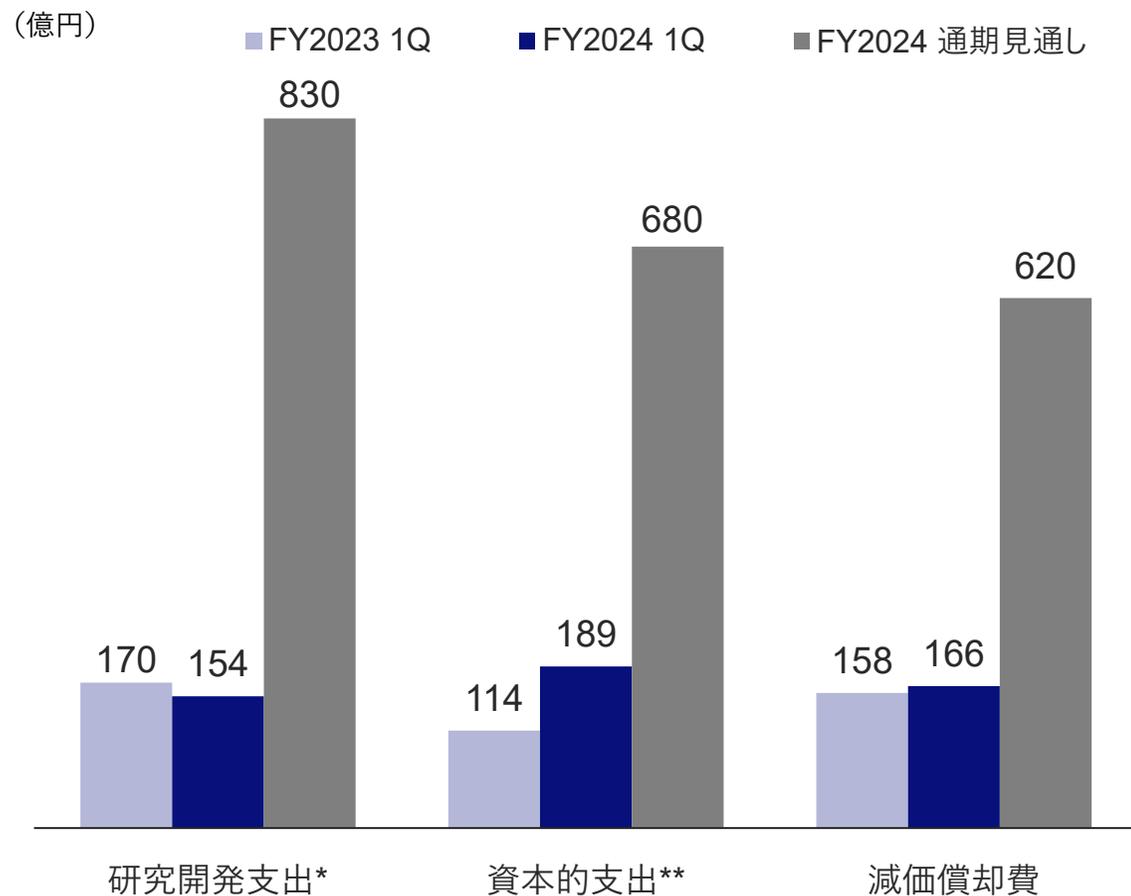
*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております
1 為替影響調整後の成長率

5%

2024年3月期 売上高成長率¹

投資など

第1四半期実績（4-6月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2023	FY2024
研究開発支出* (a)	170	154
開発費資産化 (b)	17	27
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	153	127

(単位：億円)

	FY2023	FY2024
償却費	16	21
	2023年3月末	2023年6月末
開発資産残高	560	599

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

**資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用权資産が含まれています。(FY2023 1Q：26億円、FY2024 1Q：43億円、FY2024 見通し：90億円)

為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

為替

(単位：円)	FY2023 1Q	FY2024 1Q	FY2024 見通し
円／USドル	129.57	137.37	132
円／Euro	138.12	149.47	144
円／CNY	19.58	19.56	19

為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	7
1ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	58	35

*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。